

令和7年度 第1回神戸2030ビジョン推進会議

－議事要旨－

日時：令和7年11月13日（木）15:00～17:00

場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

<出席者>

氏名	役職
(会長) 品田 裕	神戸大学大学院 法学研究科 教授
石川 路子	甲南大学 経済学部経済学科 教授
稲垣 賢一	一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 理事
加藤 明	連合神戸地域協議会 副議長
佳山 奈央	La vie est belle 株式会社 「おやこの世界をひろげるサードプレイス PORTO」代表
佐合 純	iC 株式会社 代表取締役
竹内 友章	関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科 講師
中野 みゆき	特定非営利活動法人 Oneself 理事長
中村 浩一郎	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部 部長
平田 恭子	西日本旅客鉄道株式会社 理事 (近畿統括本部副本部長・兵庫支社長)
松下 麻理	Artist in Residence KOBE (AiRK) 一般社団法人 ハイム 代表理事
村川 勝	一般社団法人兵庫県中小企業家同友会 代表理事
山瀬 敬太郎	兵庫県立大学環境人間学部 教授

<欠席者>

中村 優子	P&G イノベーション合同会社 代表社員職務執行者 P&G R&D ヴァイスプレジデント 神戸研究所所長 シンガポール研究所長
-------	--

(敬称略)

1. 開会

2. 議事（1）神戸2030ビジョンの策定方針について

<事務局>

－資料3、4に基づき説明－

<会長>

- ・総合基本計画の概要と、今回の策定方針について説明があった。みなさん賛同いただけているようなので、この策定方針で進めたい。

3. 議事（2）神戸2030ビジョン（素案）について

<事務局>

－資料5に基づき説明－

<委員>

- ・方向性IIのKPI「広葉樹林の持続可能な森林資源の循環量」について、特に「利用量」ではなく「循環量」としているのは評価できる。ただし、循環という以上、伐採・利用だけでなく再生まで含めて考えなければならない。森林の再生には長い年月を要するため、5年・10年では成果が見えにくい。長期的な視点の中での5年だということを知っていただかないと「何も変わっていない」と受け取られかねないと感じた。

<委員>

- ・KGIに「22～39歳の転出超過解消」とあるが、これを達成するための施策やKPIはどこに載っているのか。

<事務局>

- ・若者や子育て世代が神戸で働きたい、住みたいと思える環境づくりが重要である。そのため、働く場の創出、子育て環境の充実などが1つ大きな施策の柱となるので、企業誘致や創業支援、子育てと仕事の両立支援が関連すると考えている。

<委員>

- ・若い世代が神戸に住み続けるかどうか、企業立地数だけでは測りきれないと思われる。子育て環境の整備も重要だが、他にも何か指標が必要ではないか。

<事務局>

- ・先ほどの説明に捕捉すると、KGIはそれぞれの方向性と1対1で紐づくものではなく、3つの方向性を総合的に進めた結果として達成される目標である。そのため、実施計画も個別の施策・個別の指標という形ではなく、ここに掲げるすべての施策を実施することで達成するという構成にしている。

<会長>

- ・基本計画の KGI・方向性・施策・KPI はすべてがリンクしているという説明だったかと思う。そして、委員からはその部分をもう少し具体的に説明してもらった方が納得感があるという話だったかと思う。この辺りのロジックをよりわかりやすく示す必要があるが、対応関係を一義的に整理するのは容易ではない。今回のビジョンは前回よりも大幅に改善されており、5年後のビジョンにも期待したいと思う。

<委員>

- ・KGI や KPI は毎年チェックするのか。また、思ったように進まなかった場合、5年間の途中でも施策は変わるのか。

<事務局>

- ・推進会議で毎年進捗管理を行う想定である。KGI は議決を経て定める目標であるため原則固定だが、KPI は必要に応じて見直しながら柔軟に運用する。

<委員>

- ・KGI「22～39歳の社会動態の転出超過を解消」について、神戸から転出した友人の多くは「働く場所がない」と言って東京へ出ている。一方で、神戸は住みやすく、子育て環境も良いので、魅力的な仕事があれば戻りたいという声も多い。これは本当に働く場がないのか、広報の問題なのかは切り分けて整理した方が良いが、若い世代を呼び込んで定着させるには、働く場づくりや発信が重要だと思う。また、今の20～30代の多くは、利便性よりも自身の志向やライフスタイルに合った場所で働くことを重視している印象がある。

<委員>

- ・企業経営では、まず KGI を設定し、その目標達成のために事業別の KPI を立てていく。その後、毎年、KGI が達成できているか PDCA を回して確認していく。今回の、神戸 2030 ビジョンも同様に KPI すべてを達成していくと KGI が達成するというはそのとおりかと思う。企業経営のように単純に関連付けるのは難しいかと思うが、神戸 2030 ビジョンでも、各 KPI がどの KGI にどの程度効くのか見える整理があるだけでも理解しやすくなるのではないかと感じた。

<委員>

- ・KPI については、基本的に政策を評価するものと理解をした。行政においては政策があって、施策があって、事業に基づく活動がある。行政で成果を出せる指標が必要だと思う。
- ・庁内の連携という観点で、部門別計画と総合基本計画がどのように連動しているかを意識できるような指標があるとよいのではと感じた。

<事務局>

- ・総合基本計画と部門別計画の連動性を高めるべきというのは、ご指摘のとおりである。何を指標にするかという部分と、庁内で連動性を高める意識づけをすることは分けて考える必要があるかと思う。

<委員>

- ・KPI は取れる数字でないといけない。例えば、方向性Ⅲの「新たな市政課題に対応するために創出した時間数」は、本当に測れるのか。

<事務局>

- ・委員ご指摘のとおり毎年数値がとれる KPI を置こうと考えている。今後、各部署と詳細を詰める中で、数値がとれないと判断したものは、変更を提案させていただく可能性がある。
- ・「新たな市政課題に対応するために創出した時間数」は、例えば、職員 1 人分に相当する業務を減らした場合に生み出される年間時間や、業務委託をする仕様の中での人数・時間数などから積算できると考えている。

<会長>

- ・庁内全体で総合基本計画と部門別計画とをつないで考えていくということは非常に重要な観点ではあるものの、そのつながりを指標として表すのは現時点では難しいと考えられる。

<委員>

- ・方向性Ⅰの KPI に「神戸空港利用者数」や「市内延べ宿泊者数」が挙げられているが、インバウンドの拡大によってオーバーツーリズムなどの問題も起きている。神戸市が単に数を増やせばよいという考えではないことは理解しているが、数字が意味を持つためには工夫が必要である。旅の質のようなものを数値化するのは難しいが、定量的な数値だけでなく、定性的な事実を積み上げていく視点が必要ではないか。

<事務局>

- ・今回設定している KPI は、神戸市が今後 5 年間で進めることのすべてを表すものではない。この度いただいた意見も含め、毎年、様々な議論を庁内外と交しながら、定性的なものも含めて、適切な KPI が見つかった場合や、KPI が伸びていても KGI が思うように結果がでない場合等、KPI の再検討や追加などは柔軟に考えていきたい。

<会長>

- ・定性指標を考える際には、アンケートやテキスト分析によって定量化して設定できないかと考えるのもひとつである。

<委員>

- ・KPI を見て本当に網羅されていて分かりやすいなと感じた。
- ・方向性Ⅰの「市内スタートアップ数」は、増えるのは素晴らしいが、KGI との接続を考えると、業態や規模などの内容を追う指標も必要ではないか。
- ・方向性Ⅰの「大学・高専の新卒者の市内就職率」は、新卒者に限らず、退職する方や戻ってくる方も把握すると、より分かりやすくなると思う。

<事務局>

- ・雇用をいかに創出するか、魅力的な経済を神戸でいかに持続するかという観点は極めて重要と感じている。その点、スタートアップ企業は、若い世代にとって魅力的にうつる分野になり得るのではないかと考えたことと、スタートアップが興りやすい土壌のあるまちを表現したいことから掲げている。
- ・市内就職率は、本当は神戸で働きたかったのに、働く先が見当たらない、なかったというお声がある中で、KGIの1つに「22歳～39歳の社会動態の転出超過を解消」を掲げていることから、市内就職率を上げるというのは1つの答えではないかということで掲げている。ほかにも適切な指標がないか、視野を広げて検討したい。

<委員>

- ・スタートアップ数は入り口指標であり、本来は地域にどれだけインパクトを残したかという成果指標が適しているのではないか。また、ゼブラ企業、ソリッドベンチャーなど様々な起業の仕方がある中で、スタートアップという表現は曖昧でもったいない。
- ・「大学都市神戸」を活かし、神戸ならではの産官学共同プロジェクトや共同研究からスタートアップが生まれると、若い世代に、自分にも面白い起業ができるかもしれないと感じてもらえるのではないか。

<事務局>

- ・いただいた意見も踏まえて庁内で議論をしたい。神戸には大学がたくさんあるというのは強みであり、そこで様々な研究をしていただき、その高度な知見を活かして新たな事業のきっかけが生まれるというのはとても良い発想だと感じる。産官学のプロジェクトをKPIに入れることも考えたが、産官学の連携だけを拾うことが良いのか。一方、行政が関与しない産学の連携も多くなされていると考えられるが、その数を把握することに意義があるのか悩み、掲げなかった。

<委員>

- ・北海道の厚真町や上川町は、産官連携に力を入れており、起業したい人が集まっている。神戸も、外の企業から見て、面白い起業ができることを謳うために、産官学共同のプラットフォームなどを作って登録してもらうのはどうか。

<事務局>

- ・産官学連携のプラットフォームは既に立ち上げており、広報が十分でなかったと感じている。プロジェクト数自体は把握できるが、規模や内容がばらばらで、波及効果を数値化するのは難しい。ただ、産官学連携により「神戸で面白いことが生まれる」という空気感を醸成することが、経済規模の維持・拡大にとって大事だと考えているので、検討を重ねたい。

<会長>

- ・神戸2030ビジョンではなく、部門別計画でどこまで設定するかというバランスの問題が1つあるのと、市がすべてのスタートアップ数を把握するのは難しいという問題もある。一度庁内で議論していただきたい。

<委員>

- ・方向性Iの「地場産業の海外輸出額（アパレル、ケミカルシューズ、真珠加工、清酒、洋菓子）」を指

標にするのは疑問である。現状ではサービス業の比重が大きいため、もし輸出額で測るなら範囲を広げるか、あるいはサービス業の GDP に関連する指標を用いる方が、実態を正しく反映できるのではないか。

<事務局>

- ・ご指摘はそのとおりで、庁内でもまさに議論をしているところなので、いただいたご意見も踏まえて、しっかりと議論をしていきたい。

<委員>

- ・方向性 I に掲げる経済環境の指標について、現在は新卒だけでなくキャリア採用も増えているため、新卒の就職率だけでなく、就労人口全体を見る視点があってもよいと感じた。
- ・神戸の強みである山や海など、自然と市民が関わる機会を示す指標も入れて良いのではと感じた。

<事務局>

- ・就労人口に関しては、就業人口全体を見る場合に、神戸市が何にどう関与してその数値を上げられるのかということや数値の捕捉の方法をイメージした中で、市が連携している大学や高専を通じてなら捕捉・関与ができるのではないかとすることで新卒者をターゲットに置いている。いただいた就業人口を測ることができるのかどうか検討を行いたい。
- ・自然との関わりについては、Well-being 指標の中で一定捕捉されている。その他でも何か表現できる指標があるのかということから少し議論をしたい。

<委員>

- ・方向性 II の主な施策に掲げられている「空き家空地対策の推進」について、災害リスクの高いレッド・イエローゾーンの住宅は、本来転貸はできないが、家賃の安さや利便性から、留学生などが居住している現状がある。市としては、危険なエリアからの住み替えを進めるのか、それともエリア内の動きを活性化させていくのか、ビジョンの方向性を聞きたい。

<事務局>

- ・関係部局と話をしないと明確には言えないが、基本方針の中で「安全で快適な住環境を支える」ということを掲げており、これを具体化すると、レッド・イエローゾーンへの居住を積極的に推進することはないのではないかと考える。この基本計画に掲げている方向性に沿ってどういう具体的な施策を行っていくのかというのは、関係部局の事業単位で検討していくことになるかと思う。

<委員>

- ・今回の神戸 2030 ビジョンの良いところは、KPI を柔軟に見直す姿勢という点にある。どうしてもフィックスさせてしまうところを、柔軟に追加、修正、削除の検討をしていくのは良いことだ。また、現場の声を反映しながら修正していく姿勢は重要だと考えているため、次年度以降、見直していく際にも、現場の声を聞きそれを共有して欲しいと思う。
- ・KPI が独り歩きすることは怖いと感じており、そうならないよう他の委員からも意見があったように「この KPI はあくまでも代表的な指標である」や「行う施策全部の指標ではなく、その中のピックアップ

ップしたものである」ということがわかるような説明を明記すべき。

- ・目標によって達成までの期間が異なり分かりづらいという意見もあったので、概要に説明を加えても良いのではないかと感じた。
- ・関係人口について、今後重要になる視点だと思う。ふるさと納税やその他の指標も含め、関係人口の増加をKPIとして設定することも良いのではないか。

<事務局>

- ・KPIを柔軟に変える方針への評価は大変心強い。懸念の声もあるかもしれないが、変化が激しい時代に対応するためには必要だと判断した。KPIの独り歩きの懸念については、丁寧に記述したい。
- ・目標値については、毎年の進捗を見る中で、達成状況が分かるようにしたい。
- ・関係人口については、具体的な情報が総務省から示されておらず、報道ベースの情報しかない。そのため、現段階でKPIとして置くにはリスクを感じているが、国の動向を注視し、必要に応じて検討していきたい。

4. 閉会

<事務局>

- ・本日は貴重な意見をいただいた。今回提案したKPIは決して完璧ではないため、いただいたご意見を踏まえ、整理・追加・削除を行い、皆様が納得できるようなKPIにしていく。宿題を持ち帰り、次回の会議で修正案を示せるよう努めたい。